



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第43号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円(送料込みで200円)

〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「新しく生まれる」 エレミヤ
- ◎ 聖書の中の人々：「ヤコブ」
- ◎ イエス・キリストに出会う「イエスと出会った迫害者サウロ」
- ◎ キリストを信じた体験談「不思議な出来事（2）」 by S
- ◎ 聖書の教えのエッセンス

<聖書からのメッセージ >

「新しく生まれる」by エレミヤ

テキスト：ヨハネ3:3~8

本日は「新しく生まれる」という題でメッセージしたいと思います。テキストに沿って見ていきましょう。

3:3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。

ここでイエスは新しく生まれる、という私たちが、あまり聞いたことのない表現をしています。そしてその新しく生まれる、ということを行わないと我々は神の国を見ることできない、ことが語られています。聖書には人が死後行く所として天国や地獄のことが書かれています。誰でもそうでしょうが、私たちは死後、地獄へ行くより、天国や神の国を見たいほうがよいと

思えます。ですので、私たちが地獄へ行ったりせず逆に神の国を見たり、入ったりするにはこのこと、新しく生まれることは必須のように思えます。新しく生まれる？あまり聞いたことのない概念かもしれませんが、少し一緒に考えてみましょう。

3:4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいって生まれることができますでしょうか。」

さて、このイエスの語られた新しく生まれる、ということばに対してイスラエルの教師であるニコデモは質問をしています。彼の質問の主旨は、もうすでに大人になり、体も大きくなった我々がいったいどうやって、再度新しく生まれるなどということが出来るのか？いまさらもう一度お母さんのおなかに戻って赤ん坊のように生まれ変わるわけなどできないでしょう、ということばです。「新しく生まれる」ということばに対して、我々誰もが持つような疑問を彼がイエスに対して行って

「新しく生まれる」 by エレミヤ

いるわけなのです。

3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」

さて、ここでイエスはその新しく生まれる、ということに関して説明を行っています。イエスはその新しく生まれる、ということは、我々の肉や肉体や物理的なことではなく、それは、霊に関することがらであることをここで説明しています。そして、我々は誰もが霊によって生まれる、という経験をすべきであり、もしそうしないなら、誰も神の国に入ることもできず、死後天国に入ることができないことを語られたのです。

聖書は人間という存在の構成が、肉体とさらに霊の2つからできていることを語ります。肉体的、物理的なことをいうなら、我々人間は誰もが母親のお腹から生まれます、このことは明らかです。そしてイエスのいう“新しく生まれる”とは肉や肉体に関する誕生や、母体から生まれるということではないのです。そうでなく、霊から生まれるということに関して語っているのです。我々誰もが聞いたことのない概念かもしれませんが、霊によって再度新しく人が生まれる、という経験がこの地上には存在している、とイエスは語り、イエスは私たちがその経験をすることを薦めているのです。

3:6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。

「肉によって生まれた者は肉です」ということばを考えて見ましょう。いわんとしていることはこうでしょうか。私たちの肉や肉体は、その肉体上の父や母と似てくる、親の性質を受け継いでくる、という意味合いです。

親が黄色人種である日本人であり、髪の毛も目の色も黒いなら、その親から生まれる子供も黄色の肌であり、髪の毛も目の色も黒い子

供として生まれます。そして私たちの肉体はこのような肉体的な性質だけでなく、アダム以来の悪い性質、罪の性質をも受け継いでいます。かつてダビデが罪を犯したとき、「私の母は私を罪の中ではらんだ」と語ったように誰も彼も最初の人アダム以来の罪の性質をもって生まれているのです。そしてそうであるがゆえに私たちは新しく生まれなければ神の国に入れない、すなわち、母からの肉体的誕生だけでは、神の国に入ることはできないのです。

「御霊によって生まれた者は霊です。」

ここで書かれている御霊とは、神の霊のことをさします。そして新しく生まれるとは、私たちが神の霊によって再度生まれることをさすのです。そしてこの新しく生まれることによいことがひとつあります。それは、神の霊によって生まれるなら、私たちは神の子となり、結果神の性質を持ち神の性格を持ち、神の正しさをもつようになる、ということです。いわば、神の国に入る資格が手にはいるようなものです。であるから、新しく生まれたものは神の国に入る、といわれているのです。このことを考えて見ましょう。先ほど書いたように子供は親に似ます。犬から生まれたものは犬の子であり、決して人間にはなれません。同じように、人から生まれたものは人であり、そのままでは神の国に入れません。そして御霊によって生まれるとはいわば、神の霊から生まれることなので、生まれた人は神に似てくるのです。そんな馬鹿な、と思うかもしれませんが、聖書はそのようなことをここで述べているのです。

**3:7 あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っ
てはなりません。**

この新しく生まれるという概念やことばは聴いたことのないことばかもしれませんが、実は聖書やキリスト教の根幹をなし、中心部分をなすことがらです。人がこのことを経験して初めて実感として神の国やら、永遠の命や

「新しく生まれる」by エレミヤ

ら、神の存在を悟り、知るようになります。単にうまいことばや気のきいたことばが語られている、ということではないのです。聖書を良い知識や、何か気の利いた格言のように読む人もいるかもしれませんが、でもそれだけでは大事な部分を見逃すこととなります。実践し行って始めて大事な部分を自分のものとする事ができるのです。

たとえば、自動車の教習所へ行くと運転や、交通法規のテキストを与えられます。それは、読み物といえば、読み物なのですが、しかし、単に読むだけでなく、それに基づいて車の運転ができるようになり、初めて意味あること、価値のあることとなります。同じ意味合いで聖書のあらゆる約束は実践して初めて自分の身に生きた経験となります。私自身のことをいうのも恐縮ですが、私もまだ若い高校生どきにまさに霊で新しく生まれる、ということを経験しそれ以来自分の人生の歩みや目標、価値観が一変してしまっただけです。それで今でもこのような奉仕を行っているのです。

3:8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」

この新しく生まれる、ということの説明してイエスはそれを風にたとえています。風は目に見えないものであり、物質的な存在ではありません。しかし、じゃあ存在していない、起きていない現象かというとなんか事はありません。私たちは風が吹いていること音がすることはきちんと感知するのです。霊から生まれる、新しく誕生する、ということもそれと同じです。

新しく生まれたといっても、私たちはその人が再度お母さんのお腹に入るのを見るわけではないのです。また、新しく誕生したからといって突然30cmほど背が高くなるわけでも、突然別人の様に美人になるわけでもありません。新しく霊で生まれても外形的、肉

体的には何も変わらないのです。しかし、風が吹く、風の音がするというように、新しく霊で生まれるとその人の心や思いや、行動が大いに変わること、それは周りの人はみな理解するのです。しかし、そうではあっても何があって、何故その人が変わってしまったのか、その深い理由は周りの人にはわかりません。それが、「あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」とのことばの意味合いです。

作家の三浦綾子さんは、そのキリストにあって新しく生まれる経験をした方です。彼女は、戦前子供を教える熱血教師でした。しかし、戦後世の中の価値観が一変したため、無気力、虚無的な思いになってしまいました。かつて神聖なものとして扱った教科書に戦後、墨を塗ることにより、何が正しいことなのかわからなくなってしまったのです。結果、自殺未遂をしたり、病にもなりベッドに伏せていたのです。しかし、彼女はキリストを知り、新しく誕生し、神の命を得るようになりました。神の霊により、病もいやされ、すばらしい作品を書く人に変えられていったのです。彼女が書いた氷点を始めとした多くの作品が人々を励まし、歩み方を教え、正しい方向を示すものとなりました。確かに聖書のいう“人が新しく生まれる”ということばは、今も真実なのです。この神のことばを真理として受け入れ、キリストを信じる人は今の時代でも神の霊にあって新しく生まれる、という経験をする、このことを知ってください。



三浦綾子

聖書の中の人々「ヤコブ」

ヤコブは、信仰の父であるアブラハムの子供イサクの息子です。イサクと不妊の妻リベカが神に祈り、双子の兄弟エサウとヤコブが与えられます。エサウが兄で、ヤコブは弟です。ヤコブとは「かかと＝おしよける者」という意味があり、彼が、兄のかかとをつかんで生まれてきたため名付けられました。

ヤコブは、エサウから長子の権利(長男が受ける権利)を1杯の食べ物と引き換えします。エサウは長子の権利を軽く見ていました。さらにヤコブは母リベカと共に、老いて視力が弱い父を騙して、兄エサウの「神の祝福の約束」を奪います。そして殺意を持つ兄から逃れる為、ヤコブは故郷カナンから750km程離れたハランに住む叔父ラバンの所に身を寄せました。

その旅の途上、ヤコブは夢で天に届くはしごから上り下りしている天使を見ます。その時、神様が「**地上のすべての民族はあなたとあなたの子孫によって祝福される**」(創世記27：14)と、彼の子孫が偉大な民族になると約束されました。人を押しよける性格で、問題の多いヤコブでしたが、神様はヤコブを選んでいました。それは兄エサウが、物質的なものを求めて神の言葉を軽んじたのとは逆に、ヤコブは神の約束を非常に大事に考えていたからです。

ハランに住んだヤコブは、今度は叔父ラバンに幾度も騙され苦労を重ねます。しかし神の守りにより財産を築き、故郷に帰るのです。創世記32章では、ヤコブが故郷に帰る際、ヤボクの渡しと言う所で、夜明けまで天使と格闘したことが記されています。天使はヤコブに勝てないので、彼のもの関節を打ちます。それでもヤコブは、「私はあなたを去らせません。私を祝福し

て下されなければ。」(創世記32：26)と言い、天使を離しません。

天使はヤコブに「**あなたの名は、もうヤコブとは呼ばれない。イスラエルだ。あなたは、神と戦い、人と戦って、勝ったからだ。**」(創世記32：28)と、彼を祝福しました。

この時からヤコブはイスラエル(神に勝つ者、神が支配する)と呼ばれます。ヤコブは、ラバンの2人の娘レアとラケル、レアの女奴隷ジルパ、ラケルの女奴隷ビルハの4人の妻がおり、十二人の息子が生まれます。この息子たちがイスラエルの十二部族の祖となり、神の民が増え広がっていったのです。



天使と格闘するヤコブ

イエス・キリストに出会う「イエスと出会った迫害者サウロ」

イエス・キリストは十字架刑となり3日後に復活され、弟子たちの前に現れその後、彼らの目前で天に昇られました。イエスの復活を目撃した弟子たちは使徒となり、イエスの復活と福音を伝え、初代教会が始まります。

しかし当時のユダヤの宗教指導者のパリサイ人達が教会を迫害し、多くの信徒が逮捕され殺されました。そして青年サウロも迫害者のひとりでした。彼は生まれながらのローマ市民でパリサイ派の高い教育を受けた超エリートでした。ユダヤの教えに熱心なサウロは、信徒たちのことを神に逆らう極悪人と考え、エルサレムから遠く離れたダマスコの町にまで捕らえに行こうとします。

このサウロとイエスの出会いは非常に不思議で特別なものでした。

使徒9；1～6 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。立ち上がって町に入りなさい。そうすれば、あなたのしなければならぬことが告げられるはずです。」

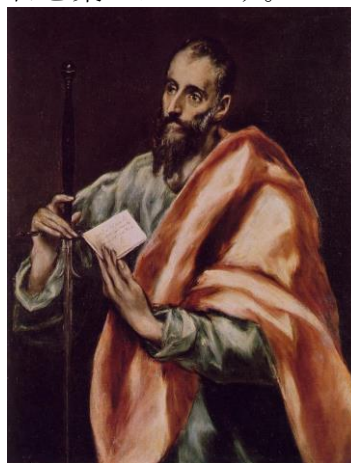
サウロの前に、突然天からの光が取り巻き、彼は倒れ目が見えなくなります。太陽の光を直接見ると失明してしまうのと同じです。

そして天の光の中「なぜわたしを迫害するのか」というイエスの言葉を聞いたサウロは、自分こそ神様に敵対していたことに気が付いたのでした。

盲目になったサウロは、イエスに示されサウロの所を訪れた信徒アナニヤの祈りで目が見えるようになりました。その時から彼は福音を告げ知らせる者となりました。このサウロが、使徒パウロです。

主イエスと出会い、彼は迫害者から使徒へと180度変わったのです。パウロはイエスを信じ真のいのちを得ることが最も大切であり、かつての自分の地位や名誉をゴミのような全く価値のないものと言っています。

そして多くの苦難や迫害の中、当時異邦人であったギリシャ人たち(白人)にイエスを伝え、最後は殉教します。彼がローマをはじめ西欧の国々がキリスト教国となる土台を築いたのでした。



使徒パウロ

キリストを信じた体験談『不思議な出来事(2)』 by S

数年前に、あるご夫妻の話を耳にしました。ふたりとも当時60代だったと思うのですが、「癌」だということでした。時に、その奥さまが手を骨折したということをも聞きましたので、癌のこととあわせてお祈りしていました。

その間、骨折は良くなったということでしたが、それから今に至るまで日々癌が癒されるようにお祈りしているのですが、そのご夫妻のことをある方に聞いたところ、何でも癌はそのままだということなのですが、しかし特に痛がっているわけでもなく、時々ご近所の方たちと旅行を楽しんだり、また、他の人たちと交流するために積極的に外出されているそうです。

ご夫妻が癌になったということを知って、早10年近くが経ちますが、その当時と全く変わらずに生活されていらっしゃるのをお伺いして、正直びっくりでした。もちろん「癌」と言っても色々なパターンがあるかと思うのですが、とても明るい方たちだそうで、いつの間にか癌のことなんて忘れていたかも知れないなあなんてことも思いました。

「病は気から」なんていうことばもありますので、それもそうなのかもしれませんが、もしかすると私のほんのささやかなお祈りにも神さまは耳を傾けてくださっているのでは？なんてことも思いました。

と言うのは、神さまに祈ると不思議なことがいつも起きるからです。絶対にそうです～、とは言えませんが、願わくばそのご夫妻がイエスさまを知る機会も与えられますように、なんていうお祈りもしているので、そのことを神さまはお喜びになって、

少しずつお祈りにこたえてくださっているのでは？とも思います。

あるクリスチャンの方や私が今通っている教会の牧師が言われていたのですが、「どんなことでも祈ってみるものだ」ということを小耳に聞いていたのですが、それはもしかすると本当かもしれない、と思いました。お祈りはクリスチャンの特権とも言えるのですが、「これはいくらなんでも絶対に無理！」と思ったとしても、ひょっとしたら、なんてこともありますので、よろしければ実践してみてください。

神さまは私たちの切実なお祈りに耳を傾けてくださって、御心なら奇跡を起こしたり、不思議なわざをしてくださるので、何かありましたら信じてお祈りしてみると良いかもしれません。

詩篇 71:7 私は多くの人にとっては奇蹟と思われました。あなたが、私の力強い避け所だからです。



pixta.jp - 14403871

私たちは天国へ入れるでしょうか？

私たちは 死後天国へ入れるでしょうか？考えて見ましょう。

<全ての人の人生に2つの定まったことがあります>

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き(裁判)の座につくことです。裁判の結果、無罪の人は永遠の命を受け、有罪の人は火の池に投げ込まれます。以下の様に書かれています。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき(裁判)を受けることが定まっている

<神の戒めに従って裁かれる>

死後の裁きの基準は聖書に書かれている十戒です。すなわち、我々が以下の戒めを守っているかどうかで死後の行き先が決まります。具体的には神を拝する、偶像を作らない、神の名をむなしく唱えない、安息日を守る、父母を敬う、殺さない、偽証しない、盗まない、姦淫しない、むさぼらないとの10の戒めです。これらの戒めを全て完璧に守り、一度も破ったことのない人は無罪として、火の池の罰を受けることはありません。

<私たちは天国へ入れるのか？>

とはいっても、このような神の戒めを全て守ることは私たちには難しいことです。偽証しないすなわち一度も嘘をつかない人は珍しいでしょう。盗むなどといっても小さなことを含めるなら一度も盗んだことのない人も珍しいでしょう。したがって、残念ながら、私たちは神の前に出たとき、有罪の宣告を下される可能性が高いのです。

<罪のない羊が私たちの罪の代わりに死ぬ>

旧約の時代の人々も私たちと同じように、神の戒めを全ては守りきれない人々でした。彼らが犯した罪が許されるために、神はその罪の代価を支払うべく、羊や牛を犠牲としてささげることが命じています。捧げられた罪のない羊や牛が血を流し、命を失って人々の罪の犠牲となり、代価となったのです。その時、罪を犯した人々の罪は許され、彼らは永遠の命を受けました。

<キリストは神の子羊>

イエスキリストは十字架で死にました。そしてその死は聖書によれば、神の子羊として我々の罪の犠牲、代価を払った身代わりの死であることが書かれています。

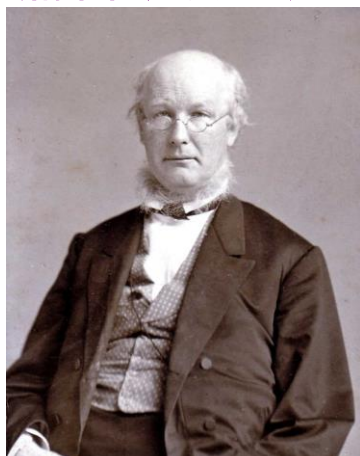
ロマ4:25 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

このキリストを受け入れ、信じる人は死後の罰に会うことがなく、永遠の命を持つようになります。私たちがもし、神の戒めを守りきれず、罪があるとしてもキリストがその死によって代価を払ってくださったのです。それで、たとえ死後の裁判の座に出ても、無罪、借金を返済したものとして、有罪の宣告を受けないのです。ぜひこのキリストを受け入れてください。



子羊であるキリストの十字架の死

聖書に関する有名人のことは：ホラス・グリーリイ
(編集者、政治家)



聖書を読む人々を心情的であっても社会的であっても奴隷とすることは不可能だ。聖書の原理は人間の自由の土台である。

<お知らせコーナー>

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30－12:30,午後 14:00－16:00 見本

場所:東京都、京王線府中駅 10 分 ルミエール(市民会館)

府中市府中町2-24 (tel:042-361-4111)

1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。

どなたでも来会歓迎、入場無料です。

教会への連絡:tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★ 教会のHPもあります。

毎週の礼拝や聖書のメッセージの動画もアップされています。

ご興味のある方は、「Yahoo! Japan」で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。

尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリ
ーブ&ミルトス <http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>